166
112

大日本

戰捷討清劍舞法

藤原懋編纂

欽英堂發行

特23
337

明治文庫

自序

王師連戰連捷、前歡未た盡さるに後歡又忽相繼ぐ、而して歡毎に未た嘗て詩を作して王師を唱せざるはあらず、此編乃ち王師に牙山に豐島に平壤に海洋島の戰を誌し且つ轉た能く捷を制したるを誌し之を劍舞にて作して、世の忠膽義腸士の之を讀むに臨んとす、高樓盃を揚げ、郊原杖を曳くの日、此詩を唱し此劍舞をなせは、恐くは薪に臥し膽を嘗むるに庶幾からんか、

明治廿七年秋拾月

著者自題

凡例

一吟者と舞者と各々別なるを要す此時に方ては吟者は舞者の擧動に注意し聲の長短高下宜しく其度合に適せしむべし

一舞者は吟者に顧慮することなく意に任せて劔舞すべし吟者顧慮する時は知らず識らず擧動澁滯するものなり

一吟者なきに方て舞者自ら吟ずる時は餘り大聲を出さゝるを良とす大聲を出す時は唯に呼吸せわしくして擧動澁滯するのみならず擧動は總て聲威に壓せられ技藝に勇を欠くの觀あり

一舞者自ら吟する時は餘り大聲を發せず唯擧動の節々にて語氣を高く且つ活潑にすべし

一詩を吟するには其聲餘り長きに過ぎず短きに失せず宜しく中庸を執るべし長けれは長歌の感ありて勇壯を損し短ければ劔舞爲し難し

一何れの詩にても發音は靜に吟し出すべし句尾は概して低音なるものとす第二句は初の音

を高く活潑になし急に音を下け又徐々に聲を高くすべし

第三句は上句を中音にて吟し出し中句に至りて最も聲を太く高くし尾句に至りて又聲を中音に復す第四句は上句を低聲より起し漸次に聲を高上し句尾に至りて聲を細く長くすべし以上何句あるとも前文の例に準すべし

一各字句の語尾と其聲を高く長くし各句の句尾は(第四句を除くの外)低く且つ短からしむ

一劔舞に尺八横笛月琴の數を加ふれば頗る妙なり此時は舞者吟者を兼ぬることなかるべし

一舞者は活潑勇壯なる操作をなすべし而れども設りに手足を動かし身躰騷然たるは見苦し

一擧手一投足の微と雖も故なく動かさず

一擧動の節々は正しく區域を立つべし

一身躰は悠然として山の靜かなるが如く水の洋々然たる趣を保すべし

大日本捷戰 討清劔舞法

出師歌

◎出師歌

過。四民謳和。壓倒東海三尺劍。蹂躪天下七寸鞋。朝鮮八道薄
四百餘州脆白紗。銃砲可廢刀可納。空擧一擊拂妖魔。

師

明治廿七年八月一日御公布になりし宣戰の御勅なり大詔一たび下りてよ
四民聞夜に寢を忘し心知し惰眠忽焉として覺め勇氣勃然として興りともに大詔を喜
ばず東洋とは支那朝鮮安南西比利亞等の諸國あり而して我が神國に肩を並ふる國と一

歌

つもなきなり我が神國が斯くも旺なること三尺もある大劔の力にて即ち此劔を以て東洋
列國を壓倒し來れるなりされば此劔を提け足に七寸の鞋を穿ちて起つときは東洋は申
すまでもなく宇内の廣き万國までも蹂躪し得るなり朝鮮は弱國なれば八道は宛然紙の

如く薄きものゞ支那は四百餘州もある大國なれども是又紗よりも脆きものゞ紙より薄く紗よりも脆き國を討つには銃砲も刀劍も無用なり唯握り拳て澤山であるそ敵幾萬ありとも片端より敲き殺すべしといふ意なり劍舞を爲すときは始終此意味を失はざるよふ身躰の動作外猶慷慨悲憤の元氣を含むこと肝要なり

（此詩の吟じ方）第一第二の句は各々四言にて一句を爲せり故に毎句とも七言の詩句を吟ずるよりは一入長く且つ緩なる音勢を要すべし

第一句の語尾（過テー）のテの字を長く引きて適度に之を止め更に次なる二句を吟せんとする前に今一度エー（是はテの字の反音なり）と吟じ出しつゝ第二句にかゝるべし

◎大詔一過。四民謳和。（タイショウ　反音なり）（ビトタヒヨギッテーエー　シミンーアウワスー）（是ハ前語尾テーの）

第一句大詔と吟じ出せるとき（此時屹然直立）右手を高く右斜めに擧げ四指を閉ぢ人差指を伸ばし上方を指すべし又左の手は腰なる刀の鍔元を握り少しく左方に寄する氣味に構ふ両足は揃へて踵と踵とを接し爪先を開くべし身躰は最も嚴肅にかまへ屹然直立すべし顔ハ正面を向く

一たびと吟ずるとき右手を活潑に左斜めに下すと同時に左足を一歩後方に退くべし（此時右手の姿勢は從前の儘顔は右手に連れて身躰と與に左方に向く）

過てと吟ずるとき右足を退きて左足に接すると與に身躰を屹立しつゝ右手を左方より右方に水平に一の字を畫く如くするなり而してテーと長く引く尾音の處にて両手の掌を上に向げ額邊に來らし頭を少しく俯し其狀両手に詔書を取て頂く如くするなり

第二の句四民と吟じ出す前にエー（是ハ過テーといふテの字の反音なり）と吟じ出しつゝ頭を上げ活潑に両手を下し左手は鍔元を握り右手の拳を右脇下の帶の邊に附す

出師歌

四民と吟じ出すや否や右足を少し退きて右手を前方に伸ばし拇指を屈し四指を伸し一二三四と指折り數へつゝ其手を頭の高さに擧く（此時顔は正面を向けるを以て其擧たる右手の掌は右耳と相對すべし）

（謳和）と吟するとき左右の手を伸して頭上に擧げ且つ掌を相接する如くす稍や此姿勢を保ちて後靜かに両手にて左右に半徑を畫きつゝ下すなり下したる両手は自然に垂るべし

◎壓倒東海三尺劍……トウカイヲーアットウスルーサンジヤクノーケンー

東海の聲にて左足を少しく左後方に開き左手は鍔元を握り右手は前方に伸しヲーと長聲するとき左足を舊位に復しつゝ躰を斜め右方に轉し右足を少し許り右後方に開く右手は伸したるまゝ躰の運動に從ふ此運動終るや否や右手を活潑に下してハタと右腰部を撲つべし

壓倒といへるとき躰を正面に復しつゝ左足を左後方に開き右手に十分力を加へ（拳を堅く握）一旦拳を右乳の前邊に來らし更に强盛物を押し潰す意氣よ込にて拳を活潑に下す

三と吟ずるとき小腰を屈め左足を後方に退け右手は劍柄を握る

尺と吟ずるとき刀を拔き放し劍の聲にて劍身を頭上に擲へ身躰を屹立し左手は鞘口を握る

◎蹂躙天下七寸鞋……テンカヲージウリンスルーシチスンノーワラジー

天下の聲にて左足を左斜めに開き頭上に構へたる劒を以て前方眼の高さにていの字の如く左より右に活潑に劒を使用すべし

蹂躙すの聲にて左足を舊位(右足の傍)に復すると同時に一たび足踏(足撲のこと)をなし劒を頭上に神速に振り廻す

七寸と吟するとき右拳を右乳部より五六寸隔りたる前邊に來らし劒尖を左斜めに下ぐるなり之を下くると同時に左手の拇指と人差指を張りて他の三指を屈し劒身の邊に持來し鞋の長を測り見る形容を示す鞋といふとき二三歩前進す右拳及左手の位置は從前の儘

◎朝鮮八道薄於紙……テフセンーハチドウーカミヨリーウスクー

朝鮮の聲にて躰を右方に轉し右足を開き顔ハ正面を向き右手を伸し劒尖にて朝鮮は此の方位なるぞといふ形容を差示すなり八道といふときに右足を舊位に復しつゝ躰を正面になし屹立す右手は劒尖にて物を數ふる樣をなす是れ八道を數ふるに擬するなり左手は鞘口を握る

紙よりと吟するとき左手を右手の傍ゟ來らし紙を疊む狀をなし之を劒にて切ること二回ばかり薄くといふとき左手を口部に近づけて一たび吹くべし其狀は切りたる紙を吹き飛す樣を爲すなり

◎四百餘州脆自紗……シヒヤクーヨシウハーサヨリモーモロシー

四百といふとき左右の手を大に開きて大なる物に接したる形容を示すなり此時右足も亦大に開くべし餘州といへるとき右足を舊位に復し右手を活潑に下げて劒尖にて足前一尺ばかりの邊を擊突する形容を爲すべし

紗よりいとへるとき劔尖にて足元にある紗衣を引掛け之を左手に取る形容を示す脆しといへるとき左手に持てる紗衣を右手の劔にて一二回刺貫く形狀を示す

◎銃砲可廢刀可納……ジウハウーハイスベシートウーナサムーベシー

銃砲の聲にて二三歩退き右足を後に左足を前にして屹立し左右の手を屈して劍を横たへ射擊の姿勢を執るべし廢すべしの聲にて射擊の姿勢を變じ一旦直立し右手に持てる劍を背後にかくす左手は鞘口を握る刀の聲にて左足を一歩退くると同時に背後にかくしたる劍を再び前面に突出し両眼にてキット劍尖を注視す納べしの聲にて刀を活潑に鞘に納む而して悠然として左足を右足の傍に引付け左手にて右肩をはハタと敵き袖をタクリテて肩に掛く

◎空拳一擊拂妖魔……クウケンーイチゲキーヨウマチーハラハンー

空拳の聲にて右足を一歩退け左手は鞘口を握り右手を振揚げて拳を堅め物を敵き毀る姿勢を執る一擊の聲にて左手にて握り居る鞘を少しく前に拔き出し両眼に怒を含みて右拳にて劍柄を一二回擊つ狀を示す妖魔をの聲にて両足の位置は其儘に保ち躰を屈折して左足元の邊に両手を揃へてさしのばし而して再び躰を起し両手を頭上に擧ぐ（此は敵を捕へて頭上にさしあげたる形容なり）拂ふの聲にて右足を舊位に復すると同時に頭上の手を活潑に下して物を地に擲つ樣を爲すべし

◎京城陣中作

懸軍万里討頑兇。殺戮生擒士氣雄。請見皇威輝海外。漢城々外旭旗風。

（釋）明治廿七年一月以來朝鮮内地大に騷擾せり支那之を機會として大兵を出せしかば

我が神國よりも出師を命じたまひぬ我が軍京畿に着するや朝鮮の賊徒畏怖して忽ち逃け去り支那兵も亦恐れて京城に來らすされども牙山といへる處に數千の兵を屯在せしめ頻に我が間隙を窺ひしかば遂に七月の末開戰に及びける我軍大勝あり賊を斬ること草の如く捕獲する所亦山の如し是に於て凱歌を奏して京城に歸る旭旗肅然として陣門に飜り兵氣儼然として斗を突く國光を輝かし武威を揚ること幾許ぞや此詩即ち瑞氣靄然たる形狀を寫したるなり劍舞者は殺氣の中に悠然快樂を含みたる形容を失はざることに注意すべし

（此詩ヲ舞フニハ始ヨリ抜劍シ居ルベシ）

◎懸軍万里討頑兇……ケングンーバンリーグワンキヤウーチートウズー

懸軍の聲にて右足を一歩右斜めに歩み出だすと同時に劍を横たへて胸前に持來し劍背を左手にて支へ其狀物を懸たる如くするなり万里の聲にて左手を放つと同時に劍を高く構へて左方より右方に大なる半輪を畫き右足を舊位置に復しつゝ躰を左方に轉ず

頑兇の聲にて躰を少しく左方に屈折して左手を伸べ物を引つかみたる形狀を保ちつゝ躰を屹立し右手を伸す討つの聲にて躰を正面に復し右足を開き右手を振揚げ劍にて左手に携へたる物品を一二回シタゝカに擊つ樣を爲すべし

◎殺戮生擒士氣雄。サツリクーセイキンーシキーユーナリー

殺戮の聲にて太刀を頭上に構へ左方に一回切方を行ふ

生擒の聲にて劍を口にクワエ左足を開き躰を少しく右方に向け両手を活潑に突出して敵を引攫

む狀を爲す士氣の聲にて攫みたる敵を地よ擲ち直に右足にて之を踏押へる形を示す雄なりの聲にて口にクッエたる刀を右手に取直し頭上にて一振振廻して劔尖を下に向け右手を活潑に右方に伸ばす

◎請見皇威輝海外……コウミヨーコウイーカイグワイニーカヽヤグチー

請見よの聲よて両足を揃へて屹立し(正面を向く)左手を額よアテヽ遠く天の一方を打眺め右手を後に廻して劔背を己が背に接し暫時物を眺望する形容を保つ皇威の聲にて左手を額邊より下ろし腰刀の所に托し同時に右手を頭上に掲げ腕を十分伸して劔刃を前にして直立す海外にの聲にて頭上に掲げたる刀を活潑に下し直に刀を背後にかくす（請見よの時の如くするなり）又刀を活潑に下すと同時に躰を左方に變じつゝ左手を右より左方に山を畫く如くに爲すなり輝くの聲にて身躰を正面に向け背後にかくしたる刀を復ひ頭上よ差上げキリ〳〵と速に二三回振廻すなり

◎漢城城外旭旗風……カンジヨーショウグワイーキヨクキノーカゼー

漢城の聲にて左足を一歩左斜に開き右手を下し劔尖を前にし左手は伸して靜かに或る一点を指す城外の聲にて右足を右方に開き躰を右方に轉つゝ右手の劔にて前面に一の字畫く如くして左より右に引くべし旭旗のと吟ずるとき右手を下げて右股の上に持來し左手と與に劔柄を保持す風の聲にて頭を少しく右方に向け其狀頭上の旗の風に飜れるを仰ぎ見る形容を爲すべし

◎陣中漫吟

大海波鳴月照營。誰知萬里遠征情。孤眼未結還家夢。遙聽中宵喇叭

聲。

（釋）此詩は海邊に在る陣中深夜の光景なり總じて旅は僅か一日二日の程にてもいとゝ寂寥を感ずるものなり況して懸軍万里の人々に於てをや今夫れ陣中の人々は暴虎馮河の勇士のみなり然れども夜深け世間靜かなるに及では古里の事など思はれて人知れず涙を催すものなり蓋し是人情の免れ難き處にして剛に強きものは又感にも強き所以なり見よ大空に懸れる月華は淸輝煌々として陣中の霜を照し叢に鳴く秋の虫と林間を走る谷川の水音と相和し遠く聞ゆる岸撲つ海涙の響高く飛べる一行過雁の影深山に啼く猿の聲孤村に吠ゆる犬の聲聞とし見るとしていかで涙の種とならんされば陣中の人々は此等靜閑なる景光に接すると與に又幾多の感慨起りてソゾロに愁哀を感するなりアマリ物の哀を感ずる程に夜已に深けれども未だ眠ること能はずせめては夢になりとも古郷に歸らばやと思ふて眠に着かんとすれば早夜明にもなりしにや遙か彼邊の方より喇叭の聲が聞ゆるなり（此喇叭の聲といへるは起床號音のことゝ）陣中遠征の情實に此の如きもありされば此等の詩は情を以て全篇を總へるものゆゑ劍舞を爲すにも亦情を旨とせざるべからず

◎大海波鳴月照營……タイカイーナミナッテーッキーエイチーテラスー

大海の聲にて左足を半歩程後方に退け左手を腰刀の所に着け右手を伸して左方より右方に波狀をなしつゝ引くなり波鳴ての聲にて右足を大に開きて斜めに位置し右手を右斜めに高く擧げて急に左方に下して左と相擊打す（是大浪相觸て聲を生ずるの狀なり）月と吟ずるとき右手を高く頭上に伸ばし而して靜かに仰きて月を眺むる狀を示す營をの聲にて頭を左方に轉し左手にて左方を指し（其狀左方に陣營あるを示す如くす）右手は急に下して腰骨の邊に來す照すの聲にて足の位置を變ずることなく躰の上部を右方に偏倚し顏を左方に向け右手を擧げて掌を左方に向く（其狀月光が高く左方の陣營を照せる如き景樣を示すなり）

◎誰知萬里遠征情。……タレカーシランーマンリーエンセイノージョウー

誰かの聲にて両足を揃へて屹立し一旦眼を閉ち天を仰ぎ知らんの聲にて靜に頭を俯して左方右方を見廻す此時右手は自然に垂れ左手は鞘口を握る万里の聲にて左足を一歩後方に寄すると同時に頭を少しく高みになし右手を伸して右方より左方に引きつゝ斜めに高く揚ぐべし遠征のと吟するとき両足を揃へて一線上に置き両手を組む情といふとき一旦頭を揚げて両眼を閉ち又靜に首を俯し愁にせまりたる狀を爲すべし

◎孤眼未結還家梦……コガンイマダームスバズークワンカノーユメー

孤眼の聲にて復び頭を揚げ右手の人差指にて己れが右眼を指し左手は鞘口を握り両足は揃へて直立す未だの聲にて左足を一歩後方に退くると同時に右手を右襟に添へて左襟と右襟との接合まで下し結はずの聲

にて右足を右斜めに開きて左右の手を胸前に來し紐を結ぶ狀を爲す還家のと吟ずるとき左手を斜めに高くさしのばし次で右足を左足の傍に接す梦と吟ずるとき左手を活潑に下して左股を撲ち右手を頬に當て頭を少しく右方に傾け両眼を閉づ

◎遙聽中宵喇叭聲……ハルカニーキクーチウショウーラッパノーコエー

遙にの聲にて右足を一歩退き左手を額に持來し頭を少しく左方に寄せ遙に遠方を眺むる如くす右手は右小妻を取る聽の聲にて右足を左足の傍に接し頭を左方に傾け両眼を閉ち左掌を脇に接して物音を考へ聞く狀を爲す中宵と吟ずるとき左手を下げて腰刀の所に來し頭を左右に微動して活と両眼を開き更に頭を傾けて右方の高天を望む而して右手は高くさしのばして天の中央を差すなり喇叭の聲にて右手を下し右足

を一歩退き左右の手を近接して喇叭を吹奏する狀を爲すなり

○陣中漫吟

鏖殺牙山十万兵。腰間一劍血痕腥。今朝有客欣然日。近日全軍屠北京。

（釋）十万の兵とは大軍をさしたる稱なり牙山は清兵屯樂の處にして要害堅固の地たり我が兵七月二十九日を以て之を襲ふ敵大敗兵器糧食を棄てゝ潰散す清兵の死傷途に滿ち逃くるもの亦多く戮殺せらるされば我が腰間の劍を取て之を檢するに血の痕があり〳〵とあらはれて腥き臭氣あるなり是より第二回の戰爭は何れの場所ならんかと思ひ居るとき今朝はゞ知人が來ていと喜ばしき顏色にていへる樣近日の中總軍大擧して北京を攻るむよしなりと告げぬ……之を聞く兵士の喜びは如何此劍舞は乃ち勇氣雀躍の躰を示すを旨とすべし手足身躰の運動皆活潑にして顏容欣然たるべし

◎鏖殺牙山十万兵……アウサツスーザガザンーッウーマンノーヘイー

鏖殺の聲にて両足を開き太刀を上段に構へ敵の頭を眞向割になす躰勢

を執るべし牙山の聲にて右方に一度斬方を行ひ次て（足の位置を變ずることなく）上躰を左方に轉じて一度斬方を行ふ十万のと吟ずるとき右足を左足の傍に接して直立し両手を廣げて大兵の形容を示す兵と吟ずるとき又右足を廣く開き太刀を上段に構へて前面に一回斬方を行ふ

◎腰間一劍血痕腥。……エフカンノー

イッケンーケッコンーナマグサシー

腰間の聲にて両足を揃へて屹立し右手よ持てる劔を腰鞘に添へ一旦此姿勢を保ちたる上又忽ち劔を前面よ屹出す一劔の聲にて右拳を胸前に持來し劍刃を打眺めやゝ此姿勢を保つ血痕の聲にて右手を下け劍刃を袴の左襟にて一回之を拭ひ上躰を少しく左方に俯す腥の聲にて上躰を起し両足を揃へて屹立し劔刃を鼻邊に持來して之を臭ぐ狀を爲す

◎今朝有客欣然曰……コンテウーカクアリーキンゼントシテーイワクー

今朝の聲よて速に劔を鞘に納むべし客ありの聲よて右足を半歩程開き躰を右斜に保ち右手の拳にて門を敲く狀を爲す欣然としての聲にて莞爾として一笑を含み両手を拱く曰くの聲にて両足を揃へ両手を腰に接す

◎近日全軍突北京。……キンジツーゼングンーペキンチーツカンー

近日の聲にて左手を口に當て右手を伸して指を一二三と數へ屈するなり全軍の聲にて右足を大よ開き両手を開きて力を加へ大なるものを前方に押寄する狀を爲す北京をの聲にて両足を揃へて屹立し左手を額に接し頭を仰向けて北京城を望む如くす突んの聲にて左足を一歩踏出し両手は槍を持ちたる姿勢を執りて活潑に左方を突くべし

◎陣中喜雨

一道奔過万壑雷。山亭秣馬且銜杯。喜雨之外猶堪喜。此夜三更襲賊魁。

（釋）成歡の戰は七月の末八月の始めなりしかば炎威天地を燒き人は火中に在るに異ならずされば人々皆際雨のあらんことを望みけり何の日にやあらん大雷大雨起りてさしもの炎熱も忽ち消散せしかば人々大に喜び馬を山亭に留めて之に秣を與へ己も亦酒盃

を傾けて雨を喜び居つるをさて〳〵我等は唯に雨を喜ぶのみならずして外に又喜ぶべきものあるなりそは此の涼しさに乘して此夜三更の頃に敵陣を襲ふべしとなり

陣中喜雨

◎一道奔過万壑雷……イチドウーホンクワスーマンガクノーライー

一道の聲にて右足を活潑に後方に開きつゝ右手を伸し左方より右方に一の字を引くなり左手は鞘口を握る奔過すの聲にて開きたる右足を左足に接すると與に高く揚げたる右手を活潑に下して左手と擊打せしむべし万壑のと吟ずるとき右足を一歩退き又直に左足を引きて右足に接し大手を擴げて大なる山の形を示す雷と吟ずるとき左足を一歩踏出し又直ちに右足を其傍に來し右手を高く揚げ急に之を下して左手と擊打す

◎山亭秣馬且銜杯……サンテイームマニーマグサカウテーカツーハイヂーフクムー

深中喜雨

山亭の聲にて右足を右方に開き右手を揚げて山亭の高きを示す形容を爲すべし左手は鞘口を握る馬にの聲にて左右の手は手綱を執る姿勢を保ち右足を一歩踏出し次て左足を踏出して止まるなり秣にての聲にて上躰を左方に屈し両手を左足の邊に差伸して其狀秣を取る如くし又其取たる秣を馬に與ふる形容を爲す且つの聲にてヒラリトと身を左方に轉ず此時躰の重を右脚に支へ左足は輕く左方に伸ばす杯をの聲にて盃に酒を注く狀を示す銜むの聲にて一二回酒を飲む形容を爲すなり

◎喜雨之外猶堪喜……キウノーホカーナホーヨロコブニータエタリー

喜雨の聲にて両足の位置を變ずることなく躰重を左足に托し上躰をクルリと右方に向け右手を額より庇して遥かを打見遣り天色を望む如くす外の聲にて右手を下げ左手にて物を左方に押し送くる如くす猶の聲に

て両手にて襟を排き少しく胸を露す此時躰は正面を向き躰重を右足に托し左足は輕く左前方に出すべし

喜ぶにのの聲にて右掌にて胸部を打ち堪へたりの聲にて今一度胸部を撫打すべし

◎此夜三更襲賊魁……コンヤーサンコウーゾククワイチーヲソー

此夜の聲にて欣然たる面色にて躰を左方に轉しつゝ右手を高く頭上に揚く三更の聲にて右手を前面に突き出し掌を上にして指を一二三と折り數ふべし賊魁をの聲にて躰を正面に復しつゝ左足を後方に退け上躰を屈して活潑に拔劍すべし襲ふの聲にて上躰を起すと同時に刀を頭上に搆へ活潑に前方に斬方を行ふ

◎聞牙山大勝有此作

神州有名器。取此器者懦亦起。請見日風清雨相激邊。流血淋漓爭是非」。非常功成非常時。棄此機復求何機。男兒死義平生事。豈坐忍見國家危。」一聲吶喊十万兵。兵氣揚處馬蹄輕。五劍已折五馬倒。縱横奮戰不知生。」硝煙雲尽日將夕。韓山翠夸韓江白。紫雲翠煙十里原。凱歌聲沸似海汐。」

（釋）我が神州には一名器あるぞ此名器を手に取る時は懦夫も亦强者となるべきぞ請ふ夫の日本の風と清國の雨と相激する景況を見られよ各々火花を散して戰鬪し流るゝ血汝は川の如く互に生を舍てゝ勝負を爭ふにあらずや凡そ人として功を立んと思はざるものなし然れども功を立つるには立つべき時あるなり今日は卽ち功を立つべき時なり此の時を棄てゝ復び時はなきぞ男兒と生れて義の爲めに死するこ當然の事ぞ今日は國家の大事件に關すれば義の爲めに死する秋なり又之によりて非常の大功を立つべき秋なりいかで坐ながら國家の危を見るべけんされば忠勇なる我が軍人は一聲揚げて敵の

大軍を屠るぞ此く人々が勇めば馬までも勇みて風雨の如き勢にて敵を屠りし程に五本の劍も折れ五匹の馬も仆れしぞ我々は徹頭徹尾死する覺悟なれば此身を百死の中に投じて假にもキタナキコトは爲さぬぞやがて硝煙晴れしかばフト首を回らして望めば日もはや暮に近きて韓山は深く青色を帶び韓江は清く白色を呈せり此の青き色と白き色は互に和合して紫の雲や翠き煙となりてさしも廣き原野にたなびき居れりそが下に息へる各陣々には凱歌の聲が頻りに起りてさながら海の汐の沸くが如くに聞ゆるぞといふ詩なり

◎神州有名器……シンシウー、ウーメイキーアリー

神州の聲にて一二歩前進して踏留まり直立して右手を顔前に持來し神を拜する狀を爲すウーの復音にて左足を一歩後方に引退くると同時に腰刀(鞘のまゝ)を脱して両手に取り復ひ左足を右足に接して直立す名器ありの聲にて両手に持てる刀を二回押戴く

◎取此器者懦亦起……コノキチートルモノーナンモマターナコルー

此の器をの聲にて右足を一歩後方に退け左手は鞘を握り右手は劍柄を握りて刀を拔く取る者と吟るとき左手の鞘を地に擲ち右手を前方に突出して一回劍を振廻すなり懦も亦の聲にて左足を後方に活潑に開き刀を高く頭上に構ふ起るの聲にて左足を右足の傍に接し直に右足を後方に引き頭上の刀を下して活潑に斬方を行ふ

◎請見日風清雨相激遷……コウミヨーニップーシンウーアイーグキスルノーヘン

請見よの聲にて開きたる右手を舊位に復し左手を左方に伸して遥かの一方を指し右手は自然に垂れて劒尖を前にす而して左手は一方をさし示したる後直に額の所に持來して物を見遣る狀を爲すべし日風の聲にて右足を活潑に右方に開くと同時ゝ左手を高く揚げて急に之を右方に斜下す(是疾風の右方に吹く狀を示すなり)清雨の聲更に左足を後方に開くと同時に右手を高く右方にさし伸し劒を空に閃かして急に其劒を左斜に下すべし相激するのと吟ずるとき左足を右足の傍に接して直立し躰を正面に向け左手と右手を相擊觸す邊と吟ずるとき躰を右斜めに轉すると同時に右手を伸して劒尖にて或る一点をさし示すなり

◎流血淋漓角是非……リウケツーリンリーシヒヂーアラツフー

流血の聲にて右足を一歩後方に退け上躰を少しく左方に屈し袴の

左裾にて劒刃を拭ふ狀を爲す淋漓の聲にて右手を右斜めに伸し劒を垂直に立て左手を右袖の傍に持來し腕より血流れて地に滴る狀を爲すべし是非をの聲にて活潑に右足を舊位に復し左右の拳を漸次に近づく角ふの聲にて両手の拳と拳とを摩擦する如くするなり

◎非常功成非常時……ヒジヤウノーコウハーナルーヒジヨウノートキー

非常のと吟ずるとき右足を大に開き左手を頭の高さに揚げ右手は伸して劒尖を下に向く功はと吟ずるとき右足を左足の傍に來たし更に左手を一段高く頭上にさし伸す成るの聲にて左手を活潑に下して左腰部を打ち又直ちに其手を左胸部ゝ當てゝ勳章を懸けたる狀を爲すべし非常のと吟するとき右足を開き右手の劒と左手と交叉の狀を示す時といふとき右足を左足の傍によせつけ右手を活潑ゝ右方にさし伸す

◎棄此機復求何機……コノキチースステ、ーマターイヅレノートキチモトメンー

此機をの聲にて左手にて右袖を肩の上に卷き揚げ劍を一旦頭上ゟ搆ふ棄ての聲にて頭上の劍を活潑に下すなり終て右足を左足の傍に復すまたの聲にて左手にて胸部を打ち掌を右襟中にさし入る何れのと吟ずるとき右手を高く揚ぐ時をの聲にて左手を活潑に下すと同時に躰を左方に轉し右足を開き右手をさし伸し劍尖を水平に前方に突出す求んといふとき右足を舊位に復し両手を拱きて物を考ふる狀を爲す

◎男兒死義平生事。……ダンシーギニシスーヘイセイノーコトー

男兒の聲にて悠然として一二歩前進し左手にて胸部を打つ義ゟ死ずの聲にて両足を揃へて屹立し左手を頸に當て討死の狀を示す平生のと吟するとき躰をクルリと右方に轉し右足を半歩程右方に踏出し左手を胸

部に當てゝ二三回胸を撫するなり事といふとき左足より歩を起し一二歩退却して舊位置に還るべし

◎豈坐忍見國家危……アニザシテーコクカノー、アヤウキチーミルニーシノビンー

豈に坐しての聲にて左足を右足の後方に引き右膝を立てゝ坐すべし坐すれば直ちに右手の刀を地に擲ち両手を各膝の上に置き茫然たる狀を爲すべし國家のと吟するとき席上に擲ちたる刀を執りて屹立し両手を擴げて大なる物に接したる形容を爲すべし危をといふとき右手を前面にさし伸して劍を垂直に立て又忽ち之を左斜めに倒して國家の將に傾かんとせる形狀を示すべし此時左手は左腰上に置く見にの聲にて左手を額にアテ左足を半歩程開き左手を打眺むる狀を示す忍んといふとき左手を活潑に下し同時に左足を舊位ゟ復して右手の劍を高く頭上に

閃かすべし

◎一聲吶喊十万兵……イッセイートッカンスージウマンノー〜イー

一聲の聲にて劔舞者自らヤ、ーと大聲を發しつゝ（自吟自舞なるときは此限にあらず）一二歩前進し右手は右方にさし伸し左手は掌を開きて正面に突出す吶喊ずの聲にて大股に跨りて刀を上段に構ふ十万のと吟するとき両足を揃へて屹立し両手を左右に開き兵と吟するとき右手を頭上に揚げ又急に之を下ぐ

○兵氣揚處馬蹄輕。……〜イキーアガルトコローバテーカロシー

兵氣の聲にて右足を右方に開き右手を活潑に伸して劔を水平に保ち頭は正面を向くべし揚る所の聲にて右足を舊位に復すると同時に右手を高く頭上に揚け劔を垂直に保ち劔尖にて小なる輪を畫く如くすべし馬

蹄輕の聲にて馬に騎したる姿勢を執る即ち左手は袴の結目の前方より來し右手は右後方になして鞭を使用して馬臀を打つ狀を爲し両脚は跨りて一二歩前進するなり

◎五劔已折五馬倒……ゴケンースデニチレテーゴバータオルー

五劔の聲にて両足を揃へて直立し劔を前面に持來し左手を其傍に添へて一二三四五と指折り數ふるなり已に折れの聲にて劔を前面より横へ之に左手を添へて劔を折る狀を爲す五馬の聲にて右足を開き右手の劔にて馬臀を打つ如くし更に直立して左手を左前方に出す倒るの聲にて前にさし伸べたる左手の指を逐次に折り數ふべし

◎縱横奮戰不知生……ジウワウーフンセンーセイチーシラズー

縱横の聲にて躰を左方に轉づると同時に左脚を左後方に退け刀を頭上

に搆へ奮戰の聲にて左足を軸として躰を右方に向け右足を開きて活潑に右方に斬方を行ふ生をの聲にて両足を揃へて直立し左手にて胸部を撫す知らずの聲にて刀背を頸よりアテ其狀刀を荷ふ如くするなり

◎硝煙晴尽天將夕……セウエンーハレッキテーテンマサニークレントスー

硝煙の聲にて右足を後方に開き劍を横たへて鉄砲にカタドリ射擊の姿勢を執る晴尽きての聲にて両足を揃へて屹立し両手を高く揚げて左右に排き煙の飛散せる狀を示すべし天將にの聲にて右足を一歩右方に開き右手を差伸して劍尖にて入日をさし示す如くす夕れんどずの聲にて右手を活潑に下して拳を右腰部に着け左掌を顔面にアテ、物を見ざる形を示す

◎韓山翠兮韓江白……カンザンハーミドリニーカンコウハーシロクー

韓山の聲にて左足を後方に退けて躰を左方に轉し左手を伸して遠く韓山を指す狀を爲す翠の聲にて左手を額にアテ、遙かよ眺望の狀を示し又直に其手を下ぐ韓江の聲にて左足を軸として躰を右方に轉じ右脚を開き右手は左肩の邊に持來して活潑に右斜に引くなり白しの聲にて劍を握りたるまゝ右拳を額の邊に持來し遙かを打見遣る形を示すべし

◎紫雲翠煙十里原……シウンースイエンージウリノーゲンー

紫雲の聲にて両足を揃へて直立し左手を左方に高く揚げて漸次に之を垂下し右手は自然に垂れ劍尖を前にして保持す翠煙の聲にて右手を高く劍と與に差伸し漸次に之を垂下す左手は左腰部に着く十里のと吟ずる時右足を右方に踏開くと同時に左右の手を開きて大なる物を示すの狀を爲す原といへるとき両足を揃へて屹立し左手を額にあてゝ満眸の

廣野を右より左に見渡すべし右手は自然に垂る

◎凱歌聲沸似海汐……ガイカーコエワイテーカイセキニーニタリー

凱歌と吟ずるとき右手に持てる刀を地に擲ち両手を撫摩す聲沸と吟ずるとき左右両手の掌を上向にし手を交々動かして汐の沸くが如き樣を爲す海汐に似たりの聲にて右足を一歩右方に開き右手を開き而して右足を舊位に復すると同時に右手と左手と相打觸せしむるなり、

◎聞邊警慨然有此作　作者不知

煙鬱興。濤激騰。煩聲轟天々欲崩。鋼鉄戰艦大如山。聞說海上屠長鯨。」咄辯髮虜汝何者。修飾腥羶稱華夏。狠貪虎饕汝其性。敢向境外搆奇禍。」幾隻鐵艦艦。旌旗颭黃龍。强梁甲士。氣宇呑海東。舳艫相銜互先後。傲然直欲博奇功。」何圖　天兵神機太捷速。況有謀臣參帷幄。

破裂丸迸萬雷落。只見艦艦摧壞而蕩覆。萬甲士皆沈海去。長使妖鬼啾々海上哭。」嗚呼日出之國國稱神。萬古有君更有臣。扶弱挫强存高義。」不許外人來問津。汝不聞狂胡入寇當年事。能生還者僅三人。」

（釋）朝鮮豐島沖の海戰は實に七月廿五日にあり此日我が軍は淸兵一千五百人を載せたる運送船一隻を擊沈め又淸國北洋艦隊の操江號を捕獲し淸兵八十餘人を生擒し其他靖遠號廣乙號へも大傷を負はせて追ひ拂ひたり此詩即ち海戰の景況より遠く元寇の事に說き及ぼし一讀慘憺再讀慨然實に能く神州士氣を序し得たるものなり今其詩意を畧釋せば……硝煙は黑き玉となりて天をつゝみ海涙は逆卷きて天に騰らん勢に見へけるぞ此程凄さまじき中に大砲が鳴響きて天も崩れんばかりに思はるゝぞ其大砲を打出せる軍艦は大なるものにてさながら山の如き樣である聞く處によれば我が海軍は豐島沖にて淸國の軍艦を何の苦もなく破りしよしなりエイコノチヤン〳〵坊頭ヨ汝は何奴なるぞ汝は汚れたる心を持ち腥き身を持ながら中華人間なり尊き人種ありと思ふこそ

奇怪なれ物を貪る狼根性飽くことを知らぬ虎の根性は實に汝等の持前とはいひながら道理もなき事に兵を構へ我に敵對するとはいと憎むべきにあらずやよし〳〵汝が心斯くなる以上は最早容赦も成り難しとて我が軍艦は豐島近海にて海上を見渡し居たりしにたま〳〵二三隻の軍艦出來りぬ何國の艦ならんかと窺ひ見れば黄龍を畫きたる旗を立てけり疑ふべくもなく支那軍艦なれば我軍警戒しつゝ樣子を窺ひ居れり彼等艦中の軍人共は何れもれでれる色ありて東海を一呑にせん趣ありされば後れたる艦は先なる艦に追拔かんとし先なる艦は後なる艦に負けじとて互に先を爭ひつゝ浪を穿て進み來りぬ其狀不意に我が軍艦を襲擊して大功を立んと思へるものゝ如くに見へけるぞ我軍艦の人々は敵こそ來れりとて早く大沖に乘出し敵艦をいつはり誘ひけり我が軍兵は金甌無疵の天兵なり如かも參謀の人々は皆名將のみなれば計畧といひ軍兵といひ實に百戰百勝の天賦を具有し居れるなりされども敵は飽くまて我をあなどりければ直に發砲して戰を挑みける我が兵烈怒し直に應戰す彈丸虛發なく見る〳〵中に敵艦を打沈めたり沈みし艦には支那兵千五百人計りありしが皆海底の藻屑となれりされば彼等妖鬼

どもは長く海上にて泣き悲むことならん」嗚呼汝辮髮奴よ此にて我が力量を知りしなるべし知らずば猶も話し聞かすことあるべし我が國は日出の國にて又神の御國と稱するぞかし上には万古一系の　君王ましまし下には万歳渝らざる忠臣あるなり弱きものは扶け强きものを挫き義を重じ死を輕んじ曾て外人どもの邊境を窺ふことを許さゞるぞ若し窺ふものあれば鏖にして亡骸のみをかへすなり汝辮髮奴よ汝は未だ至元の變（弘安の役の事）を聞かざるか其役には汝が祖君忽必烈が十万の大軍皆日本の海底に沈み生きて還るもの僅か三人ならずや我に敵せば何時にても此通りなるぞといへる詩なり勇壯激興眞に劍舞の好料といふべし

◎煙鬱興濤激騰……ケムリーウツコウーナミーゲキトウー

煙鬱の聲にて（身体は屹立しあるべし）両手を胸前に持來し掌を上向になし下より上方に揚げ其狀煙の立揚る如くするなり鬱興の聲にて右脚を一歩右方に寄せ両手を開く而して右手は高く左手は低くす

濤の聲にて左手を右方より左方に波狀を爲しつゝ引くべし両足の位置は變ずることなし激騰の聲にて右足を活潑に左足の傍に持來すと同時に右手を一旦高く上げ又急ゑ之を下して左手と激打すべし

◎煩聲轟天々欲崩……コウセイーテンニートゞロキーテンクヅレントーホッスー

煩聲の聲にて右足を一歩右方に開き上躰を少しく右方に傾け両手は大砲の發火繩を執る姿勢を保つ而して聲の尾音にて活潑に両手を引くと同時に右足を左足の傍に接して屹立す天にの聲にて左手を額に持來して遙か天の一方を眺望し右手は自然に垂る轟きの聲にて右脚を後方に引き上躰を少しく反らし左右の手を開く而して右手は高く左手は低くす天の聲にて左足を右足の傍に引付けて屹立し左手を活潑に下し右手を高く頭上にさし伸ばす崩れんとの聲にて右脚を一歩右方に開き両手

にて物の崩る形樣を示すべし欲すの聲にて右足を左足に接して屹立し右手を頭上に揚げ正面を向く

◎鋼鐵戰艦大如山……コウテツーセンカンーダイーヤノマーゴトシ

鋼鐵の聲にて右脚を一歩右斜に開き右手の拳を固めて左手の掌を活潑に數回打つべし是鉄艦の堅牢なる狀を示すなり戰艦の聲にて右足を左足の傍に接すると同時に両手の指を相對せしめて右肩の前方數寸の所に持來し活潑ゑ右脇下に引くべし大の聲にて両足の位置を變することなく上躰を少しく反らし左右の手を額前に持來し靜かに左右に開くべし而して右手は高く左手は低くす山の如しの聲にて右足を左足の傍に接すると同時に両手を復び頭前に持來し而して後山を畫く如くに両手を開くなり

◎聞說海上屠長鯨……キヽトクーカイシヨウーチヤウゲイチーホフルトー

聞說の聲にては小首を右方に傾け右手の掌を頰に接し靜かに物の話を聞く形容を有つべし海上の聲にて左足を左方に開き両手を躰の正面より左右に一文字形ゟ開くなり長鯨の聲にて左足を軸として右足を右斜めゟ大に開きつゝ躰を右方に轉ぜ両手を左右に開く而して左手は高く右手は低くす屠るの聲にて両手の姿勢は長槍を持ちたる姿勢を有ち右足を左足の傍に接すると共ゟ左右の手を活潑に左前方に突出す是長鯨を突刺す形容なり

◎咄辯髮虜汝何者……ドッベンパッリョーナンヂーナニモノゾー

咄の聲にて手に唾する狀をなす辯髮虜の聲にて右足を一歩後方に引き右手にて頭上の髻を握る狀をなして又急に其手を下げ左右両手を躰前

に持來して辯髮を二三回ヒキタクル形を爲す也（辯髮は三ッ組にして支那人の風態なり）汝の聲にて右足を擧げて右前方を蹴り而して両足を接して屹立す何者ぞの聲にて右足を右斜に開き右手を頭上に振上げて拳を握り急に之を下し劍柄を激打すべし

◎修飾腥羶稱華夏……セイセンチーシウショクシテークワカトーシヨウスー

腥羶をの聲にて両足を揃へて直立し左手にて鼻を撮む形狀を示す修飾しての聲にて襟を搔合せ袖を調へる形容を爲す是支那人がキタナキ心

を持ちて表面を飾る有樣を示すなり華夏の聲にて両手を腰にアテ意氣揚々として躰を右或は左に緩く搖らすべし稱すの聲にて右手を頭上に揚げ傲然屹立す左手ハ猶腰に當つ

◎狼貪虎饕汝其性……ロウトンーコゴウーナンヂーソノセイー

狼貪の聲にて左足を一歩前方に踏出し上躰を少しく左前方に傾け両手をさし伸し物を引攫みたる形容を爲す又直に右足を左足の傍に持來して直立し莞爾として右手を懷中に入るべし是他人の物を己の懷中に入るゝ形容なり虎饕の聲にて右足を一歩右斜に開き躰を右方に轉して直ゝ両手を同方位にさしのばし同じく他人の物品を引攫みたる狀をなし之をも亦懷中に藏する狀を爲すべし汝の聲にて左足の右足の傍に接し直立し躰を正面に向け右手を下方斜めに伸し人差指にて右足元より二

三尺の邊を指すべし両眼之に視注す是支那人を指したる形容なり左手は腰なる刀に接す其性の聲にて頭を微動し右側に向て一咤し次て右手を高く頭上に揚げて又活潑に垂下す

◎敢向境外搆奇禍……アヘテーケイグワイニームカイーキクワナーカマフー

敢ての聲にて躰を左斜めに爲すと同時に左足を半歩程左斜めに開き右手を頭高まで上げ五指を伸はし掌を内方に向く境外にの聲にて右足を左足に接し躰を正面に向け左手ハ劒柄の端を握り右手は鍔に當て顔の位置を右斜に保つ而して急に右足を右方に開くと同時に右手を鍔より放して活潑に右方に伸ばし少時右方の一点を指す向ての聲にて右手の掌を内方に向け頭高に揚げ頭は左斜を向き左手は鍔元を握る而して右足を左足の傍に接して屹立し右手を活潑に下すべし奇禍をの聲にて躰

を左斜に保ち左足を半歩程開き左人差指と右人差指と交叉す搆ふの聲にて右足を一歩後方に引退け右手を頭高に上げ掌を正面に向く

◎幾隻鐵艨艟……イクセキノーチーテツーモウシヨウー

幾隻のと吟ずるとき左手を前方にさゝ出して指を一二三と數へ折るべしチー（是は前句の字の尾音を復び吟ずるなり）の聲にて右足を活潑に右斜に開き右手を右方にさし伸す鐵の聲にて右拳を固めて左掌を打つべし両足の位置は其儘たるべし艨艟の聲にて両手の指を相對向せしめて之を右脇下に活潑に下しつゝ右足を左足の傍に持來し屹立すべし

◎旌旗颸黄龍……セイキー、イーコウリヤウチーセンスー

旌旗の聲にて左足を左方に開き右膝を鈍角に有ち上躰を小しく右方に寄せ両手を右脇邊に持來し右手を上に左手を下に其狀旗竿を持ちたる

如くするなりイー（是は旗の尾音を復唱せる聲なり）の聲にて靜かに頭を右上向に仰け其狀旗の飜れるを望む如くすべし黄龍の聲にて右足を左足の傍に接ち直立し右手は筆を執りたる姿勢に有ち左掌の上に龍を畫く狀を爲す颸すの聲にて再び右足を右方に開き頭を少しく上げ右手を頭邊に持來して波狀に動かす其狀旗の風に飜る如くするなり

◎强梁万甲士……キヤウリヤウーマンーコウシー

强梁の聲にて両足を擴り両手を頭邊より左右に開きて强梁の柱上に跨れる狀を爲す萬の聲にて右足を左足に接し両手を躰前に持來し掌を上に向け十指を立て左右両手を交々上下して群集の形を示す甲士の聲にて左足を一歩後方に引き右手を劒柄に觸れ劒刃を二三寸拔き又活潑に之を閉ぢて両足を揃へ屹立すべし

◎氣宇呑海東……キウー、ウーカイトウーナーノムト

氣宇の聲にて両手にて胸部を打ち右足を一歩右方ゟ開き右手を頭高に揚ぐゥー（是は宇の字の尾音を復唱するなり）の聲にて右足を左足に接して傲然屹立し右手を活潑に頭上に伸す海東をの聲にて右手を下し左足を左方ゟ開くと同時に左手を伸して或る一方をさし示す呑むの聲にて右足を後方に引くと同時に両手は大なる物を抱き揚くる形を爲しつゝ口邊に持來すなり終りて両足を揃へ屹立す

◎舳艫相銜互先後……チクローアイフクンデータガヒニーセンゴシー

舳艫の聲にて右足を右斜に開き同時に右手を右方ゟ引き而して後右手を右手の下方に持來す相銜ての聲にて左足を一歩後方に引き左右の手は揃へて右方より左方に送るべし互に先後しの聲にて両足を揃へて

直立し左右の人差指を相並接し而して交々前後に出入せしめて其狀先を爭ふ如くするなり

◎傲然直欲博奇功……ゴウゼンタヽチニーキコウナーハクセントーホツスー

傲然の聲にて左足を一歩引退け上躰を屈して拔劍し劍を前方に突出す奇功をの聲にて右足を大に右方に聞き刀を頭上に搆ふ博せんどの聲にて前方を一擊し直に直立す欲すの聲にて右手を頭上に揚げて刀を閃かし又急に之を下ぐ

◎何圖天兵神機太捷速……ナンゾハカランーテンペイシンキーハナハダーシ

何ぞ圖らん（此句次の句と連吟すべからず何ぞ圖らんにて呼吸を入れ次の句を吟ずる用意すべし）の聲にて劍を鞘に納む天兵の聲にて左足を半歩程開き躰重を右脚に移し右手を高く頭上に伸し天を指すべし神

機の聲にて右手を活潑に下し右足を軸として躰を右方に轉廻し右足を大に開く太だの聲にて右手を劔柄に掛け劔刃を二三寸拔きて活潑に之を開く捷速の聲にて活潑に右足を左足の傍に持來し左に活潑に左足を前方に進めて左右の手は射擊の姿勢を執る

◎況有謀臣參帷幄……イワンヤーボウシンーイアクニーサンスルーアリー

況やの聲にて左足を右足の傍に接すると同時に両手を活潑に下して腰部を打つ謀臣の聲にて右手にて胸部を撫摩しつゝ右足を右方に開く帷幄の聲にて右手を右方にさしのばし左手を右方より左方に山形に引くおり參するありの聲にて両手を拱き物を考ふる形容を爲す

◎破裂丸迸萬雷落……ハレッグワンハーホトハシッテーバンライチッー

破裂丸の聲にて左右両手を急活に開き右足を右方に退け躰を少しく反らす迸ての聲にて右足を左足に接し両手を活潑に前方に突出し更に右手を高く揚く万雷の聲にて右手を頭上にて數廻振回はし右足を一歩後方に退く落つの聲にて右手を活潑に下して左手と激打し右足を左足の傍に持來す

◎只見艨艟摧壞而蕩覆……タヽミルーフクスルチー（此句は次の句と連吟することなく一時呼吸を入るべし）モウシヨウーサイクワイーシカシテートウ

只見の聲にて右手を額にアテ遥か那邊を眺望す艨艟の聲にて右足を一歩後方に退くると同時に両手を躰前に持來し活潑に右脇下に引く但し両手は舟の形を示すため始め躰前に持來せるときは両手の指を相近接ふ之を脇方に引下くるに隨ひ両手の間隔を廣くす其狀八の如し摧壞の聲にて右足を左足の傍に持來し両手を胸前に持來し而して左右に持

來す其狀物の破裂せゝ形容を示すべし而ゝての聲にて右手を高く揚げ左足を半歩ばかり開く躰は正面を向く蕩覆の聲にて躰を左方に轉廻すると同時に右手を活潑に下ゝて右腰部を打つ

◎万甲士皆沈海去……マンコウシーミナーカイニーシヅミーサリー

万甲士の聲にて右足を右斜に開き両手を擴けて後右手劍柄を握り皆の聲にて直立し右手は劍刃を二三寸拔きて又急に閉ぢ顏色悄然躰容愁傷たるべゝ海にの聲にて左足を左方に開と同時に左手を右方より左方に一直線に引くべし沈みの聲にて耳破と坐し右手にて顏をカクスベシ去りの聲にて復び直立ゝ右手を顏面より放ちて右方に伸はす

◎長使妖鬼啾々海上哭……ナガクーヨウキヲシテー（此句次の句と連吟することなく此處にて一呼吸を入るべし）シウ〳〵ーカイシヨウニーコクセシムー

長くの聲にて両眼を閉ち靜に躰を右方に轉し右手を前方にさしのばす妖鬼をしての聲にて猶両眼を閉ち両手を拱き顏容悄然として首を垂れ靜に躰を正面に復す啾々の聲ゝて左足を開き首を揚げ両眼を閉ち右手にて涙を拭ふ狀を示す海上の聲にて両眼を開き左足を右足の傍に持來すと同時に右手を左方より右方に一直線に引くべし哭せゝむと吟ずるとき更に躰を右斜めに轉じ両眼を閉て少しく頭を上方に向け右手にて涙を拭ふ狀を爲す

◎嗚呼　日出之國國稱神……アヽーヒノデノークニークニーシントーショウスー（此詔此處にて切るべし次の句連吟すべからず）

嗚呼の聲にて右足を一歩後方に引き右手の拳にて左掌を打つべし

日出之と吟ずるとき左足を右足に接し屹然佇立し右手を伸して遠く一方を示ゝ國と吟ずるとき右手を頭に上くると同時に左足を一歩前に踏

出ゝ又右足を直に其傍に接ゝ屹然直立す右手は頭上に屹然たるべゝ更に大聲にて國と吟じ出す然るときは又ゝ左足を一歩前方に進め直に右足を其傍に來ゝ躰を十分伸して右手を一回頭上にて振り動かすべし神と吟ずるとき左足より歩を起し二歩退却ゝて踏止まり左手を顔前に持來し掌を右方に向け五指を接ゝて上方に伸ばゝ神を拜する狀を爲す稱すと吟ずるとき両手にて物を捧ぐる狀を示ゝ少ゝく頭を垂れ両手を頂くべゝ

◎万古有　君更有臣……バンコーキミアリーサラコーシンアリー

万古の聲にて右足を右方に開き両手を顔の前面より左右に排き少く上躰を反らすべし君ありの聲にて左足を右足の傍に持來ゝ儼然直立し右手を十分伸して頭上に揚ぐ更にと吟ずるとき右方を向き右足を開く臣

ありと吟ずるとき右手を劒柄に懸け刃を二三寸拔きて活潑に之を閉ぢ而して後直立ゝて不動の姿勢を有すべし

◎扶弱挫强存高義……ヨワキヲータスケーツヨキヲークヂキーコウギヲーソンス

弱を扶けの聲にて右足を開き幼者の手を執る狀を爲し一二歩前進すべし强を挫の聲にて両手にて强き者を引捕へたる狀を爲ゝ両手を頭上に揚げ捕へたるものを地に擲つ狀を爲すべし高義をの聲よて両足を揃へて佇立し右手を頭上にさし伸す存ずの聲にて左足を開き右手を懷中に入れ悠然として躰を上面に復す

◎不許外人來問津……ユルサズーグワイジンーキタツテーシンヲートフコトヲー

許さずの聲にて直立の儘右手を頭上に高く揚げ急に之を下ぐ外人のと吟ずるとき左手を開きて左方を示す來ての聲にて右足を開き上躰を右

前方に傾け左右の手は櫂をアヤツル狀をなす盖し渡海し來る狀を爲すなり津をの聲にて両足を揃へて直立し更ゝ眼を右方に注き右手を伸べて港の方位を差示す狀を爲す問ふことをの聲にて右手を頭上に上げ少時此姿勢を有ち又急に之を下ぐ

◎汝不聞狂胡入寇當年事……ナンヂーキカズヤー（此韻次句と連吟することなし此句にて一呼吸を入るべし）キヤウコーニウコウトウ子ンノーコトー

汝の聲にて上躰を少しく右方に向け右手を伸して人を指す狀を爲す聞かずやの聲にて上躰を正面ゝ復ゝつゝ右手を耳邊に持來し人差指にて耳孔を指す狂胡の聲にて左足を開き腰刀を拔き劍尖を水平に前面に突出す入寇の聲にて右足を後方に引き刀を頭上に搆へ一回前方を斬る當年のと吟ずるとき右手を活潑に右方に伸はし右足を左足に接ゝ更に右

手を頭上に上げ劍を垂直に保つ事といふとき刀を活潑に下すなり

◎能生還者僅三人……ヨクーセイクワンスルモノーワズカニーサンニンー

能の聲にて刀を納め生還の聲にて左袖ゝて面を蔽ひ右方に一歩退きする能のと吟ずるとき左袖を下ぐると同時に右足を舊位に復す僅にの聲にて左手を前方に差出し掌を上向ゝ中指以下の三指を屈し拇指頭を人差指の第一節に着す三人と吟するとき左手を腰刀の所に持來し右手を前方に出し掌を上向ゝ拇指と人差指を屈ゝ他の三指を上立す

◎聞大鳥公使勇膽慨然有此作

君命重。一命輕。論議濤々使臣情。胸宇三寸藏何物。蔑視狠清百万兵。

（釋）君命は重く一命と輕きぞ公使が　君命を辱かしめざるため濤々として大形／調を爲す心根と誠に健氣なる至ぞかし公使が胸三寸には如何なるもの有るならんそが胸の中

には狼清百万の大兵を眼下に見下したる勇氣あるなり

◎君命重一命輕……クンメイハーチモクーイチメイハーカロシー

君命の聲にて直立の儘上躰を少しく前方に傾け頭を垂れ両手を各腰部に持來る其狀　君の御命を承る如くすべし重しの聲にて上躰を起し靜に両手を頭邊に揚げ(掌を上向す)少しく頭を垂れ重きものを両手に持ちて頂く狀を示す一命の聲にて上躰を起すと同時に右足を開き右手にて右胸部を打ち躰を右方に轉廻す輕るの聲にて右手を口邊に持來し拇指と人差指を相接し他の三指を閉ち其狀紙か羽毛の如き一小片を持つ如くす而して口にて輕く之を吹飛ばす右手を活潑に下ろして右腰部を打つ

◎論議濤々使臣情……ロンギートウ〳〵ーシシンノージョウー

論議の聲にて右足を舊位に復ろす躰を直立して上躰を少しく反らす両手

にて一回胸部を敲く濤々の聲にて悠然として右足を開き同時に胸にアテたる両手を活潑に頭上に押上げ又靜に左右に開く使臣の聲にて右足を舊位に復し躰を屹立し右手の人差指にて鼻頭を指す左手は左腰に着す情といへるとき右手を下げ又直ちに胸部を撫摩し右足を半歩程開く

◎胸宇三寸藏何物……キョウウーサンズンーナニモノヲーザウスルー

胸宇の聲にて更に右足を開き左右の手にて襟を排き胸を露すべし三寸の聲にて左足を右足の傍に引き右手を頭上に揚げ中指以下三指を閉ぢ人差指を直立し拇指を其二節に接す何物をの聲にて右手を活潑に下ろし又直に両手を組み物を考ふる躰を示す藏するの聲にて左足を開き右手を懷に入れ懷をフクラシつゝ左足を舊位に復す

◎蔑視狼清百万兵……ベッシスーロウシンーヒヤクマンノーヘイー

蔑視の聲にて頭を左斜に爲し両眼を瞋らし右足を開き右手を頭上に揚け拳を握り固む狼清の聲にて右足を舊位に復すると同時に右手を活潑に下ろして左掌を激打す百萬のと吟するとき左足を一歩後方に引き両手を頭高より左右に開く兵と吟するとき劍刃を二三寸拔きて又急に之を閉ち左足を舊位に復す

◎聞談判破裂有此作

三軍易鞭。君命難全。」論鋒七尺鋩閃々。氣焰万丈凜焱々。」亂絲可斷何要長。憤然默斷虜使腸。狼腸裂兮腥風起。龍懷開兮殺氣揚。我纓我鋒雪何處。好是遼河水洋々」

（釋）戰爭は爲し易く談判は六ケしきものゞ世の有樣を見るに大抵談判に卑怯を取りて君命を辱かしむるもの多し我が大鳥公使ゝ慨然此に見る所あり一事一物も躊躇するなく其論議の烈しきは宛然七尺もある鋒のキラ〳〵として光れるが如く其元氣活潑なること万丈もある焔の炎々として燃へ立つ如くに見ゆるゞ總じて乱れたる絲を整理するは六ケしきものなり此の如き場合にゝ切斷するがよろしきゞされば公使は憤然として日清に繋かれる亂絲を切斷せり清國使節嚇を潰して本國に逃け歸れり嗚呼清使の腸已に裂け其腥風は我が公使の纓を穢し又鋒芒を穢せしゞされば其纓と鋒とは何れの處にて洗ひ清むべきや之を洗ひ清むるには遼河が適當であるゞといへるなり遼河は渤海に注く大江なり

◎三軍易鞭君命難全……サングンームチウチーヤスクークンメイーマッタフーカタシー

三軍の聲にて右足を開き右手を右方ゝ水平に伸し人差指にて或る一点を指す左手は腰刀を握り頭は正面を向く鞭の聲ゝて右足を更に後方に引き上躰を少しく反らゝ右手を高く揚げて急に之を下げ其狀馬臀を鞭つ如くするなり易くの聲にて右足を左足の傍に引きて直立ゝ右手を頭

上に揚げて又急に之を垂下す

君命をの聲にて上躰を少しく前方に傾け両手を額邊に持來す全ふする

はの聲にて靜に両手を組み右足を半歩開き首を俯して物を考ふる狀を

爲す難しの聲にて両足を揃へて屹立し右手を頭上に揚げ活潑に垂下す

◎論鋒七尺鉦閃々……ロンポウーシチシヤクーボウーセン〳〵

論鋒の聲にて右手にて一度胸部を打ち左足を一歩退け活潑に拔劍す七

尺の聲にて左足を右足の傍に引着け劍身を躰前に横へて尖を左方にな

し左手を尖より數寸放ちて相對し身躰を屹立す鉦の聲にて左足を半歩

程退け左手を腰部に當て右手は躰前に持來たて劍刃を上向に水平に保

持し劍柄の端と己が胸部と數寸を隔てゝ相對す而して両眼は屹と劍刃

を注視す是劍芒を打眺むる狀なり閃々の聲にて左足を右足に接し右手

を頭高に揚げ劍身を立て數回頭上にて輪を畫く

◎氣焔万丈凜焱々……キエンーマンジョウーリンーエン〳〵

氣焔の聲にて左足を一歩後方に引き右拳を口邊に持來し劍刃を外に向

け劍背を左頰に接する如くして右手を右方に引くべし而たて引きたる

右手は水平に伸たる少時此姿勢を有すべたる万丈の聲よて左足を右足に接

たて屹立たる右手を頭高に揚げ劍を垂直に立つ凜の聲にて右足を半歩程

開き右手を躰前に出し拳を袴の結目の前三寸許りに保ち劍尖を左肩前

數寸の所に持來す而して両眼を劍刃に注きて上より下下より上に見廻

し左手は腰に接す焱々の聲にて左足を右足に接し右手を頭高になし劍

刀を垂直に立て又活潑に右手を下く

◎乱絲可斷何要長……ランシーダツヤシーナンゾーナガキチーヨウセンゾー

乱絲の聲にて右足を右前方に踏出し左手は拳を握りて躰前に持來す其狀右足にて絲の一端をフマへ左手にて絲の一端を持つ形容を爲す斷つべしの聲にて右手を下げて右膝の邊に持來し劔刃にて絲を切斷する狀を示すなり何ぞの聲にて右足を左足の傍に接し直立し右手は腰部に着け左手を頭高にあげ又活潑に之を長をの聲にて右足を開き両手を大に左右に開く要せんの聲にて右手を頭上ゑ揚げつゝ右足を左足に接して直立し又右手を活潑に下げ腰部に着す

◎憤然默斷房使腸……フンゼンーモクダンスーロシノーチヤウー

憤然の聲にて左手にて胸部を打ち而して右足を右斜めに退き右手を伸し劔を水平に突出す默斷すの聲にて左足を右足に接して屹立し右手を頭高に揚げ劔を垂直に保ち又急に之を下す房使の聲にて左足を左前方

に踏出し左手は房使を引攫みたる狀を爲し右手は房使を突刺す姿勢を執る衝の聲にて右足を左足の傍に引着け劔にて左手に携ふる房使を突刺す狀を爲すべし

◎狼腸裂兮腥風起……ロウチヤウーサケテーセイフウーヲコリー

狼腸の聲にて左手は狼腸を提げたる狀を有して高く眼の高さに揚げ両眼は之を打眺むる如くす右手は劔尖を前にして拳を腰部に着す躰は屹立すべし裂けの聲にて右足を開き左右両手にて狼腸を引裂く狀を爲す腥風の聲にて上躰を少しく左前方に傾け左手は袴の左裾を取りて劔刃を拭ふなり起りの聲にて右足を左足に接し右手を頭高に揚げ劔を垂直に保ち又急に垂下す

◎龍懷開兮殺氣揚……リウクワイーヒラケテーサツキーアガルー

龍懷の聲にて儼然直立し右手を頭高になし劔を垂直に立つ而して左手にて胸部を打つ開けての聲にて右足を開き右手を水平に右方に伸し左手にて左襟を開く殺氣の聲にて右足を左足に來すと同時に右手を活潑に左斜めに突出す揚るの聲にて右手を頭上に揚げ劔刃にて小輪を畫き次て活潑に之を垂下す

◎我纓我鋒雪何處……ワガヱイーワガホコーイヅレノートコロニーソ、ガン

我纓の聲にて右足を半歩程開き両手を肥の下方に持來し靜に之を下ぐ其狀冠の紐を握り下ぐる如くす我鋒の聲にて右足を左足

に接し右手を躰前に出し劔刃を上向になし之を打眺むる如くす何れの處にかの聲にて右手を水平に右方に引き且つ右足を大に開きて躰を全く右方に轉す雪かんの聲にて左足を開きて躰を正面に復し左袂をとりて劔刃を拭ふ狀を爲すべし

◎好是遼河水洋々……ヨシコレーリヤウガーミヅーヨウ〳〵

好是の聲にて右足を左足に接し劔を鞘に納むべし遼河の聲にて右足を開き両手を擴ぐべし水の聲にて右手にて水を掻廻す狀を爲す洋々の聲にて右足を左足に接すると同時に右手を肩の高さに持來し掌を前方に向け靜に前方に二三回送り出すべし是河浪のダン〳〵と押流るゝ狀を示すなり

◎聞平壤戰慨然有此作

作者不詳

萬疊韓山追敵蹤。戰氛滿地接飛烽。眼無鴨綠江頭險。立馬遼東第一峰。

（釋）朝鮮の山又山の奥までも分け入りて敵の蹤を追ひける程に到る處に戰爭起るぞされば手負死人地に横りて腥き風吹き敵の砲火と我が砲火は絶へず相接するなり世人は鴨綠江を非常の天險と稱すれども我が眼中には決して難處の感を抱かぬぞされば今は早くも鴨綠江を超へ渡りて敵國なる遼東に入り遼東海邊第一番の高峰に上りて敵を眼下に見下し居つるぞといへる詩なり言外自ら勇壯の風味あり舞者此風味を失はざる樣劍舞すべし此等の詩は劍舞爲し難き詩なれば唯勇壯の氣風によりて始めて詩意を發表することを得るなり

◎萬疊韓山追敵蹤……マンジョウノーカンザンーテキージウチーチフー（劍舞を爲す前劍を抜きて右手に持ち之を背後に隱し持つべし其法劍背と己が背と相接する如くす且袴の両裾を高く揭げべし又白襷をかけて腕を露すも勇壯を表する一助たるべし）

萬疊と吟ずる時左足を左斜め後方に開き左手を伸し掌を下方に向け腕は伸したるまゝ一二回僅かに上下し終りに其手を高く揚げて活潑に之

を下ぐると同時に右足を左足に接すべし韓山の聲にて右足を右斜め右方に開くと同時に右手を躰前に持來し續いて劍を水平に前方に伸して之を右方に水平に引き終りに高く揚げて活潑に之を下すと同時に左足を右足に接して屹立するなり敵の聲にて右足を一歩蹈出し劍尖にて右足先の前方一尺斗りの邊を指し示し両眼も之に注ぎ左手は鞘口を握りて之を左方に寄する如くなす蹤の聲にて右足を左足に接す追ふの聲にて右足を斜め後方に開き劍を頭上に構へ両手は劍柄を握る

◎戰氛滿地接飛烽……センプンーチニミチーヒホウチーセッスー

戰氛の聲にて右足を左足に接し一旦屹立し右手を右斜めに伸して劍を水平に保ち左手は口邊に持來し其狀手を以て口鼻を蔽ひ臭氣を避くるが如き形勢を示す地に滿ちの聲にて両手を一旦胸邊に持來し又直に之

を左右に開くと同時に右足を右斜めに蹈開くべし飛烽の聲にて両足の位置ハ其儘にて右手の劒を左斜め躰前に持來し左手は劒身の中程を支へ而して両手を少しく上け劒柄の端を右眼の邊に持來し其狀射擊の姿勢を表す接ずの聲にて右足を左足に接すると同時に手を左右に開き而して又徐々に胸前に持來して拳と拳と相接する如くするなり

◎眼無鴨綠江頭險……ガンニーアウリヨクーコウトウノーケンナシー

眼にと吟じ出せるとき左手の人さし指にて己が左眼を指し右手は垂れ両足は相うろへて屹立す鴨綠の聲にて左手を垂るゝと同時に右足を後方に開き右手を水平に右斜めに伸す江頭のと吟ずるとき右足を左足に接し右手の劒を水平に右より左方に一線を引く劒の聲にて左足を半歩程後方に開くと同時に右手を高く頭上にさしのばし無しの聲にて左足

を右足に接すると同時に右手を活潑に垂下するなり

◎立馬遼東第一峰……ムマヲタツーリヤウトウーダイイチノーミネー

馬を立つの聲にて右足を右方に蹈開き両脚は馬に乘りたる姿勢を保ち左手ハ袴の結目の處に持來し拳は握りて下を向け右手は高く頭上にさし伸す遼東の聲にて右足を左足に接し右手を垂下すると同時に左手を額に庇し遠く左斜め前方を眺望する姿勢を有す第一のと吟ずるとき左手を垂下し同時に右脚を開き右手は劒を水平に持ちて左方より右方に一線を引き終りに劒を高く揚く峰と吟ずるとき右足を左足に接し而して右手を活潑に垂下するなり

◎聞海陸両捷有此作

風雲叱咤策縱横。千里懸軍事遠征。蕎地貔貅破平壤。無端黄海斃長鯨。

（釋）風の吹き起るか如く雲の飛ぶが如き我軍は舌打しつゝ敵を斬捲るなり敵を討つ其計略は縱にも横にも設けあれば敵は遁るゝ道なきぞ千里の遠き地へ大車を出すは最も困難なる者なるに我が軍はいよ〳〵遠く蹈入りて敵を討つなり風の吹けるが如く雲の騰くる如き我が軍豹の如き虎の如き我が兵は驀突になりて敵城なる平壤を打破れり豈に料らんや海軍も亦黄海に大激戰をなし大捷利を得たりけり長鯨とは大なる獲物といふことにて卽ち我が海軍の敵艦を燒拂ひ且つ擊沈めたる景況をいへるなり

◎風雲叱咤策縱横……フウウンシッタサクジュウワウー（此劍舞も始めより拔劍し居るべし）

風雲の聲にて右手を頭上に揚げ劍尖を垂直に立て又左足を後方に蹈開きつゝ右手を活潑に左方に下ぐるなり左手は鞘口を握る策の聲にて右足を左足に接し屹立し右肘を肩と齊しき高さになし劍躰を胸部に接す縱横の聲にて劍を一旦頭上に揚げ又直ちに之を下げて縱線を示し更に右足を開きつゝ劍を左方より右方に一の字を畫くが如くに躰前に引くなり

◎千里懸軍遠征……センリーケングンーエンセイチーコトヽスー

千里の聲にて左足を右足に接し躰を左斜めに位置し左手を伸し掌を上向になし五指を逐次に折屈め物を算ふる狀を示す両眼は左掌を注視す右手は自然に垂れ劍尖を殆と地に着する如く持つべし懸軍の聲にて右足を一歩後方に開くと同時に右手を胸前に持來し直ちに其臂を伸し劍を水平に左方に突出しうれより劍を右方に一の字を畫くが如くに引くなり遠征をの聲にて右足を左足の前方一歩斗り蹈出し同時に両手にて劍を頭上に構へるなり事とずの聲にて右足を左足に接し屹立し右手を頭上に伸し劍刃を立て又急に右手を垂下するなり

◎驚地貔貅破平壤……チニノルーヒキウーヘイジョウチーヤブリー

地に鵞の聲にて右足を大に後方に開き體重を全く右足に移し躰を十分後方に寄せ上躰は屹然として正面を向く而して右足を開くと同時に右手を伸し劍尖にて躰前より右方に一の字を畫くが如くに引くなり、貔貅の聲にて右足を活潑に左足に接すると同時に右手を躰前に持來し左掌と激觸せしむ平壤をの聲にて劍を頭上に擣へ直ちに右足を一歩前方に蹈出し續いて左足を右足に接す破るの聲にて左足を後方に開き頭上にて擣たる劍にて一回前方を斬るなり

◎無端黄海斃長鯨……ハカナクーコウカイーチヤウゲイチータホスー

無端の聲にて右足を活潑に左足に接し屹然直立し左手を左斜め前方に突出し五指を開き掌を外に向け右手は自然に垂る而して顔は右斜め前方を望む黄海の聲にて左手を活潑に垂下すると同時に右足を右斜め前方に蹈出し右足を伸べ劍尖にて右足尖の前方を指すべし長鯨をの聲にて右足を左足に接し劍を頭上に擣へ更に右足を一歩後方に退く斃すの聲にて頭上に擣へたる劍にて前方に一回斬方を行ふなり

◎劍舞後集

◎陣中秋宵之作　（解は畧す以下倣之）　上杉謙信

霜滿軍營秋氣清。數行過雁月三更。越山併得能州景。遮莫家鄕憶遠征。

◎霜滿軍營秋氣清……シモハーグンエイニーミチテーシウキーキヨシー

霜はの聲にて右足を半歩程開き右手を額邊よアテヽ各陣々を打見廻す狀を爲す軍營にの聲にて更に右足を大に開き両手を頭高より左右に緩に開く滿ての聲にて右足を軸として躰を左方に轉じつヽ左足を後方に引き左手を右方より左方に一直線に引くべし秋氣の聲にて左足を右足

に接し右手を高く頭上に伸して天を指し又少しく頭を仰きて天空を眺むるなり而して頭を正面に復し右手を活潑に下す清しの聲とて右足を半歩程開き右手を胸襟にアテ又直に其手を帶の所に下く

◎數行過雁月三更……スコウノークワガンーッキーサンコウー

數行の聲にて左手を左方に伸し左足を後方に引き而して左手を終りに高く上けて急に垂下す過雁の聲にて左足を右足に接すると同時に右手を額に庇して遙か天の一方を打眺め雁の飛べるを眺むる狀を示すなり月の聲にて右足を一歩退き右手を斜めに高く伸し月を指す如くす而して頭は右手の運動に從ふて眼を其拳に注くべし三更の聲にて右足を左足に接すると同時に右手を躰前に持來し拇指と人差指とを屈し他の三指を立てゝ掌を上向せしむ

◎越山併得能州景……エッサンーアッセーエタリーノウシウノーケイー

越山の聲にて右足を開き右手にて山の形を畫きつゝ左方より右方に引くべし併せの聲にて右足を左足に接し躰を正面になし少しく上躰を傾くる氣味になし左右の掌を下に向け拇指と拇指とを並せ接すべし得たりの聲にて右足を半歩程退け右手を頭高に上け又急に垂下す能州のと吟ずるとき左手をさし伸べ是亦山の形を畫きつゝ左足と同時に左方に引く景といふとき左足を右足に接し屹立し上躰を少しく反身になし頭の位置を稍や右方になし右手を額にアテ能州の景色を打眺むる狀を爲すべし

◎遮莫家郷憶遠征……サモアラバアレーカキヤウーエンセイヲーナモフー

遮莫の聲にてフト心付きたる面持にて右手の拳にて左掌を打ちいと靜

に躰を右方に廻はしつゝ右足を開くべし而して右手を斜めに高く伸す家鄉の聲にて右足を左足に接すると同時に左手を水平に左方に伸し或る一点を指すべし遠征をの聲にて左手を垂下すると同時に右手を躰の正面に突出し右足を開くに應して靜かに右方に引き懷ふの聲にて右足を左足に接しつゝ両手を組みて頭を俯し物案じなる態を示す

◎述　懷

榎本武揚

五稜郭畔望江城。流落天涯孤客情。有約明年鑒逆賊。滿城春色調千兵。

◎五稜郭畔望江城……ゴリヤウーカクハンーコウジヨウヲーノゾムー

五稜の聲にて右手を躰前に持出して掌を内方にて五指を伸して上向し左足を左斜めに退く郭畔の聲にて右手を左方に寄せ之を右方に水平に引きつゝ左足を右足に接するなり江城をの聲にて左足を後方に引き同

時に両手を頭高前數寸の所に持來して之を左右に開く望むの聲にて左足を右足に接して直立し上躰を少しく反らし頭を稍や右方に向け右手を額にアテゝ遙む天の一方を打眺むる狀を爲すべし而して両足を揃へて屹立す

◎流落天涯孤客情……リウラクーテンガイーコカクノージヨウー

流落の聲にて左方右方を見廻はしいと悄然たる形容を表すべし天涯の聲にて右足を開き右手を左方より右方に引きつゝ終りに其手を高く右斜めに揚げ頭も右方に轉じて揚げたる掌をノゾキ見る如くすべし孤客のと吟ずるとき右足を左足に接して躰を正面に復し屹然直立し右手の人差指にて鼻頭を指すべし情といへるとき両手を組みて少しく頭を傾け物を案し考ふる躰を表すべし

◎有約明年鏖逆賊……ヤクアリーメウチンーギヤクゾクチーミナゴ・シニシー

約ありの聲にてハタと両手を打ち直に左足を退き右足をく形に保ち右手を劔柄に懸く明年の聲にて活潑に拔劔し左足を右足に接して屹立し右手を右斜めに水平に突出す逆賊の聲にて右足を開き劔を上段に構ふ鏖の聲にて一回前方を斬り右足を左足に接して屹立す

◎滿城春色調千兵……マンジョウノーシユンショクーセンペイチート、ノヘン

滿城のと吟するとき右足を開き両手を左右に排く春色の聲にて右足を左足に接しつゝ左手を額に庇して右方より左方の空中を打眺むる如くし終りに左足を半歩程開き左手を垂下す千兵の聲にて右足を大に開き両手を擴げて劔を高く右斜めに構ふべし調ふの聲にて右足を左足の傍に接し右手を頭高にあげ又活潑に之を垂下す

◎馬條慢

三嶋中洲

磨墨池月。両馬賜両傑。」爭恩究竟至爭功。將軍御將術何工。」宇治之河水急流。四蹄蹴浪浪跳球。馬條慢君且留。陷人術中功自収。」陷人術中休矜伐。何知身陷將軍術。」

◎磨墨池月両馬賜両傑……スルスミーイケヅキーリヤウバーリヤウケツニータマフー

磨墨の聲にて右手を右方に水平に伸し静に之を躰の正面に持來し掌を地に向け五指ハ揃へて伸す躰は直立して動かず池月の聲にて左足を一歩後方に引き直に左手を左方に水平に伸し復ひ左足を右足に接しつゝ左手を體の正面に持來し右手と相並べ拇指と拇指と相接す両馬の聲にて右足を右斜に引くと同時に両手を頭高より左右に排き右手を稍や高く左手を稍や低くすべし両傑の聲にて右足を舊位に復すると同時に

右手劍柄を握り刃を二三寸拔き又急に且つ活潑に之を閉ち傲然たる面色にて屹立す賜ふの聲にて両手を頭高に上け拜領の品を頂く形容を示す此時上躰を稍や前方に傾け頭を少しく俯すべし而して両手を下け上躰を舊位に復す

◎爭恩究竟至爭功……ヂンヂーアラソヒーツイニーコウヂーアラソウニーイタルー

恩をの聲にて上躰を少しく前方に傾け右足を後方に引き右手を頭高に揚け掌を上方に向け指を外方に伸はす爭ひの聲にて右足を舊位に復して屹立すると同時に左手は己が胸倉を攫み右手は水平に右方に伸す究竟の聲にて左足を引き右手を頭上に揚け左手は腰に付すニーの聲にて左足を舊位に復し右手を活潑に垂下す功をの聲にて右手を右方に水平に伸すと同時に右足を開き左手にて右腕を打ち袖を肩上に卷上ぐべし

爭ふにの聲にて右足を舊位に復すると同時に左手にて己が胸倉を執り右手は拳を握りて頭上に揚げ屹然として直立す至るの聲にて右手を活潑に垂下するなり

◎將軍御將術何工……ショウグンーシヨウヂギヨスルージユツーナンゾータクミナルー

將軍の聲にて右足を後方に引と同時に両手を屈して袖中に藏し袖口を握り両肘を一伸して稍や前方に出す如くし袂の隅角を前方に出す而して右手を下に左手を上にし扇子樣の物を持つ形容を示すべし將を御す

るの聲にて右足を前方に蹈出し股は馬に跨れる狀を有す御するといふとき両手を袴の結目の邊に持來し手綱を取る姿勢を有すべし術の聲にて両足を揃へて屹立し右手の人さし指にて己が胸を指すべし何ぞの聲にて左足を開き右手を頭上に揚ぐ工なるの聲にて左足を舊位に復する

と同時に右手を活潑に垂下す

◎宇治之河水急流……ウヂノカハーミヅーキウリウー

宇治之河の聲にて右足を斜後方に引き右手を左肩高より右方に斜に引き終に手を高く揚く水の聲にて右足を左足に接すると同時に右手を活潑に垂下して腰部を擊打す急流の聲にて左足を後方に引き右手を急速に躰前より左方に引くべし

◎四蹄蹴浪々跳球……シティーナミナミーケッテーナミータマナーナドラスー

四蹄の聲にて左足を軸にして躰を右方に轉すると共に右足を右斜に開き両手を前方に突出し掌を外面に向け各拇指を屈し四指を伸す浪の聲にて右足を左足に接すると同時に右手を高く揚げて急に之を下し躰前にて左掌と激打すべし蹴ての聲にて右足を右方に開き右手を活潑に躰前より右方に引きつゝ左足を右足に接し次て右手を垂下す浪の聲にて左足を開き左手を高く頭上に揚ぐ球をの聲にて左足を右足に接し直に両手を顎前數寸の邊に持來し各手の拇指人差指を連接して輪形を示すべし跳らずの聲にて右足を半歩程開き右手を頭上に揚げて數回振廻すべし

◎馬條慢君且留……バトウーエルメリーキミカツートゥマレー

馬條の聲にて右足を左足に接して直立すると同時に躰を右斜に位置し右手にて己が帶を握り一二回拳を動かすべし慢の聲にて躰を正面に復し両手を胸前より左右に一尺計り開くべし是腹帶のゆるみたるを表するなり君且の聲にて復び躰を右斜に位置し右足を半歩程開き右手をさし伸し掌を下に向け二三回手を動かし其狀人を招く如くするなり留れ

の聲よて右足を左足よ接し屹立し一び左手を左肩の高さよなし又急よ垂下す其狀人の肩を取て地上よ押付ける如くするなり

◎陷人術中功自收……ヒトチージユツチウニーチトシイレテーコウーミツカラーチサム

人を の聲よて右足を半歩程開き右手を右水平よさし伸し人さし指を伸し他の四指を閉ぢ其狀人さし指よて人を指す如くす両眼卽ち拳を注視すべし術中よの聲よて右足を左足よ接しいと悠然たる躰容を保ち右手の人さし指よて己が胸部を指すべし陷れての聲よて左足を一歩引き同時よ右手を左側よ持來し左手と與よ或る一物を地中よ陷入る如くすべし功の聲よて右足を後方よ引き躰を右斜に保有し両手を頭高より左右に排く自らの聲にて右手の人さし指にて鼻頭を指すべし左手は鞘を握り両足は元のまゝ收むの聲にて右足を左足に接し莞爾と笑ふて右手を

懷中よ差入れ懷を澎らすべし

◎陷人術中休矜伐……ヒトチージユツチウニーチトシイレテーキンバウスルコトチーヤメヨ

人を の聲にて右足を半歩程開き右手をも右方にさし伸し人さし指を伸し他の四指を閉ち人を指す狀を爲すなり術中よの聲よて右足を左足よ接し右手の人さし指よて己が胸部を指す左手は鞘を握る陷れての聲よて左足を後方に引き右手を左脇の邊に持來し左手と共に或る一物を地中よ陷入る狀を示す矜伐ずることをの聲よて左足を右足に接し屹立し両手を鼻前に持來し拳を握りて鼻頭よ接し天狗鼻を表すべし次て両手を下ぐ休めよの聲よて右手を一び頭上よ揚げ又急下す

◎何知身陷將軍術……ナンヅシランーミハーシヨウグンノージユツニーチチイルコトチー

何ろ知んの聲にて左足を後方に引きいと悠然たる躰容を表して上身を

少しく反らし右手を両眼の前に持來して目を蔽ふべし身はの聲にて左足を舊位よ復し右手の人さゝ指にて己が胸部を指す將軍のと吟ずるとき右足を右斜め後方よ開き両手を屈して袖中に入れ各手袖口を握り肘を一振して且つ之を張り袂角を左右に張る而して右手は左手より下に し扇子樣の物を握り持つ形容を示す術にの聲にて右足を左足に接し右手の人さし指にて己が胸部を指す陷ることをの聲にて左足を引き右手を左側に持來し掌を偃せ左手と共に物を地に陷入する形狀を表す

◎聞薩賊平定有此作　三島中州

霧島之山霧吹毒。中藏玄豹猛於虎。忽向人間試爪牙。一躍勤王倒覇府。倒覇興王又叛王。朝變暮變跡如狂。誰謂君子能豹變。不知野心是虎狼。西巡一朝駐六馬。逸縱熊羆滿曠野。左追右逐相蹂躪。鎭西百里山皆赭。

奔逸再據鹿兒城。一網打尽群醜平。見始天日照海瞰。霧島之霧忽晴明。君不見老賊一片可憐處。狐死首丘不忘故。

○

◎霧島之山霧吹毒……キリシマノヤマーキリードクヲーフクー

霧島之山の聲にて右手を一び頭高に揚げて急に之を下げ更に右足を開くと共に右手を高く右斜よ上ぐ霧の聲右足を舊位に復すると同時に右手を活潑に下して右腰部を打つ毒をの聲にて左足を一歩後方に引くと共よ右手を胸部に持來し掌を上にし胸をッタイ上りて口邊まで持來すべし左手は鞘口を握るなり吹の聲にて左足を右足に接し屹立ゝ両手を口邊に持來し掌を上向にし物を頭上に押揚くる如くするなり

◎中藏玄豹猛於虎……ナカニーダロキヘウサーカダシートラヨリモータケシー

中にの聲よて右足を大に開き膝を稍や屈し左足を伸し上躰を右方に出し右手を額に庇して右足前數尺の所を注視す其狀總て叢中に怪物のひうみ居るを窺ひ見る態を表すべし玄き豹をの聲にて右足を舊位に復すると同時に右拳を左掌に打擊して驚きたる狀を示しつゝ更に右足を後方に退き両手を頭高より左右に排く藏しの聲にて右足を左足に接すると同時に両手を右乳側に持來し掌を下に向け靜に之を下ぐ其狀物を蔽ひかくす如くすべし虎よりもの聲にて左足を退くと同時に両手を胸前に持來し掌を上下相向はしめ其狀虎の口を張りたるに形容すべし而して上躰は少しく反身よなし又直ゝ左足を舊位に復し両手を垂る猛の聲にて左足を退き右手を躰前より左斜めに活潑に引くべし

◎忽向人間試爪牙……タチマチニンゲンニームカツテーサウガチーコ、ロムー

忽の聲に左足を右足に接すると同時に驚きたる面持にて右拳を以て左掌を打擊すべし人間にの聲にて右足を一歩退くと同時に右手の人さし指にて鼻頭を示し其手を轉して直に右方に高くさしのばし掌を正面に向く向ひの聲にて右足を左足に接し右手と左手を躰前に相向はしむ爪牙をの聲にて右足を退き両手を胸前に持來し右手を上に左手を下にして各掌を相向はし其狀虎の口を張りて人を嚙んとする狀を表するなり試むの聲にて右足を舊位に復し右手にて活潑に左腕を攫むべし是虎の嚙付たるに形容するなり

◎一躍勤王倒覇府……イチヤクーキンノウーハフチーダチスー

一躍の聲にて左足を退き活潑に拔劍すると同時に右足を大に後方に蹈開き躰をクルリと右方に轉し右手は劍身と共に水平に伸す勤王の聲に

て右足を左足の傍に持來し躰を全く右方に向け両手を額邊に持來し劔を横たへて之を捧げ上躰を少しく前方に傾け併せて頭を少しく垂る是謹て　帝王の御命を拜するに形容せしなり覇府をの聲にて左足を右踵の後方二尺斗りに開き両手を水平に排きをといふとき躰をクルリと左方に轉し刀を頭上に搆ふ倒すの聲にて左方に一回斬方を行ひ右足を左足に接して屹立す両手は自然に垂る

◎倒覇興王又叛覇王……ハヲタヲシーワウヲヲコシーマターワウニーソムク

覇を倒しの聲にて左足を開き刀を上段に搆へ左方一擊す王をの聲にて左足を右足に接し刃を躰前に水平に横へ興しの聲にて右手の位置を變んすることなく刃を起し終りに右手を頭高に上け劔身を垂直に立つ又の聲にて左足を開き復び劔を水平に躰前に横ふ王にの聲にて左足を右

足に接し右手を後に廻はし劔背を已れの背に接す叛くの聲にて左足を開くや否や躰を全く左方に轉しつゝ左手を頭高け右足を左足に接し左手を活潑に垂下す

◎朝變暮變跡如狂……チヤウヘンーボヘンーアトーキヤウノーゴトシー

朝變の聲にて左足を開き左手の掌を上向にして左斜に高く伸し又急に掌を偃せて下げ左足を右足に接し躰を稍や正面にす暮變の聲にて右脚を開き右手を右斜めに高く揚げ急に拳を返へして劔身を倒して手を垂下し右足を左足に接し躰を全く正面に復す跡の聲にて右足を退き右手を後方に廻して劔背を已の背に接し左手を額にアテ、遙かを打眺むる如くす狂のと吟ずるとき右足を左足に接し右手を頭高に揚げ劍刃を頭上にて二三回振まわすべし如きといふとき右手を垂下すると同時に右

足を半歩程退くべし

◎誰謂君子能豹變……タレカイフークンシーヨクーヘウヘンストー

誰道の聲にて両足を揃へて直立し両手を組み少しく頭を傾け物を案じ考ふる狀を示す君子の聲にていと静かに躰を右方に轉回し右足を右斜に開き右手を高くさしのばし而して左足を右足に接し左手にて輕く胸部を打つ能の聲にて左足を開き右手を垂下し更に左手を左方に伸すと同時に右足を左足に接し躰を正面に復す豹變の聲にて左手の掌を飜して其手を水平に左方に引きつゝ左足を退くすとの聲にて左足を舊位に復し左手を垂下して腰部を打つ

◎不知野心是虎狼……シラズーヤシンーコレーコロウーナルナー

知らずの聲にて左足を退き刀を鞘に納むべし野心の聲にて右足を大に

右後方に開き躰を右方に轉じ両手を胸にアテ是と吟ずるとき右手にて一回胸部を打ち更に其手を高く頭上に揚げ右足を左足に接し屹立す虎狼の聲にて左足を左前方に踏出し両手を胸前に持來し掌を上下相向はしむ其狀虎狼口を張りて人を嚙む勢を示すべしなるをの聲にて右足を左足に接し虎口に擬したる両手を其儘前方に突出す

◎西巡一朝駐六馬……セイジユンーイッチヤウーリクバチートーメー

西巡の聲にて左足を後方に退くと同時に左手を伸して躰前より左方に一の字を畫くが如くに引く也次て垂下す一朝の聲にて左足を右足の傍に持來し直立し同時に左手を水平に右方に伸し又直に其手を頭上に揚げ次て垂下す六馬をの聲にて左足を斜め後方に引き右手（人さし指を除くの外皆閉づ）の人さし指にて左掌を敲き直に左掌を外方に向け右

人さし指は左手の拇指と相並行せしむ駐むの聲にて両足を揃へて屹立し右手を頭上に揚ぐ

◎遙縱熊羆滿曠野……ハルカニーユウヒナーハナツテーコウヤニーミツー

遙にの聲にて右手を斜め前方にさし伸し両眼を注視す両足は揃へて屹立す熊羆をの聲よて左足を半歩程開き右手劔柄を握り劔刃を二三寸拔きて急に之を閉つ縱ての聲にて右手を右斜めに高く上げ急に之を下し左足を舊位に復す曠野にの聲にて右手を後方に引き両手を頭高より左右に排く滿つの聲にて左足を右足に接し右手を左方に引く

◎左追右逐相蹂躙……ヒダリニチイーミギニチフテーアイージウリンスー

左に追ひの聲にて左足を開き両手を左右に突出し同時に右足を左足に接す右に逐ひの聲にて右足を開き両手を右方よ突出し同時に左足を右足に接す相の聲にて左足を開き躰を正面に復し左右の人さし指を交叉して躰前に持來し両足を交々動かして少しく前進すべし

◎鎮西百里山皆赭……チンセイーヒヤクリーヤマミナーシヤスー

鎮西の聲にて直立したる儘左手を左斜め前方に突出して或る一点をさし示し両眼を注視し百里の聲にて両手を頭高より左右に開きつゝ右足を後方に開く山皆の聲にて左足を右足に接し右手にて躰前より山形を畫きつゝ右方に引くなり赭といふとき左手を躰前に持來し掌を下に向け指を揃へて垂れ同時に右手にて輕く左手の背を撫で

◎一網打尽群醜平……イチモウーウチツクシテーグンシウータイラギー

一網の聲にて左足を退き左手を屈して肘を張り其狀網を肩に掛けたる狀をなし右手は左手より下になして網の一端を執る如くす打尽しての

聲にて両手の網を投して魚を打偃せたる狀を爲し左足を右足に接し同時に右手を頭上に揚げ又急に之を垂下す群醜の聲にて左足を左方に退き両手を躰前に持來し掌を上向し指は皆立つべし平ぐの聲にて右足を左足に接すると共に右手を左方に引くべし

◎見始天日照海陬……ハジメテーテンジツノーカイスウヲーテラスヲーミルー

始ての聲にて右足を右前方に踏出し右手を胸にアテ、急に之を帶の邊まで垂下し左足を右足の傍に接し頭を稍や右方に向く天日の聲にて右足を後方に引き躰を稍や右方に轉し右手を斜に高く伸して天を指し両眼も亦之に注視す海陬をの聲にて右手を垂下し更に左手を右方より左方に引きつゝ右足を舊位に復す照ずをの聲にて左足を一歩前方に蹈出し右手を頭高に揚げ掌を正面の方に向く見るの聲にて右足を左足に接

し右手を額邊に庇して右方を透し見るべし

◎霧島之霧忽晴明……キリシマノーキリーダチマチーセイメイー

霧島之と吟ずるとき右足を半歩程開き直に右手を頭上に揚げ更に右方に水平に伸す霧の聲にて右足を退き右手を斜に高く揚く忽ちの聲にて右手を急に下して左掌を擊打す晴明の聲にて左足を開き両手を擴げ左足を右足に接す

◎君不見老賊一片可憐處……キミミズヤロウゾクーイッペンーアワレムベキートコロー

君見ずやの聲にて直立のまゝ悄然として右手を額に持來し遙か右方を打眺むる如くす老賊の聲にて右手にて胸部を撫摩し右足を半歩程後方に引くと同時に左手を首に觸れ活潑に其手を垂下すべし是首を斬落す狀也憐むべきの聲にて右足を左足に接し屹立し両手を組み悄然として

頭を垂る處といふとき屹然頭をアゲ右手を右方に伸し或る一点を指し
両眼之に注視す

◎狐死首丘不忘故……コシーシユキユウーフルキヲーワスレズー

狐死の聲にて稍や右方に轉し両手にて石碑の形を示めす首丘の聲にて
右足を左足に接すると同時に左手を右方より左方ゑ山形を畫きつゝ引
くなり故をの聲にて右手を半歩程踏開き右手を折屈して肘を枕に眠る
形狀を爲す忘れずの聲にて屹然直立し右手を頭上に揚げ又急に之を垂
下す

大日本捷戰 **討清劒舞法** 終

明治二十七年十月十一日印刷
明治二十七年十月十六日發行

定價拾五錢

討清劒舞

著作者 大阪府下東成郡玉造町西玉造二百四十三番屋敷 藤原懋

發行者 大阪市南區順慶町通四丁目百七十九番屋敷 此村庄助

印刷者 大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷 前野活版所 前野茂久次

專賣所 大阪市南區心齋橋筋順慶町北へ入 此村欽英堂

版權所有

特23
337

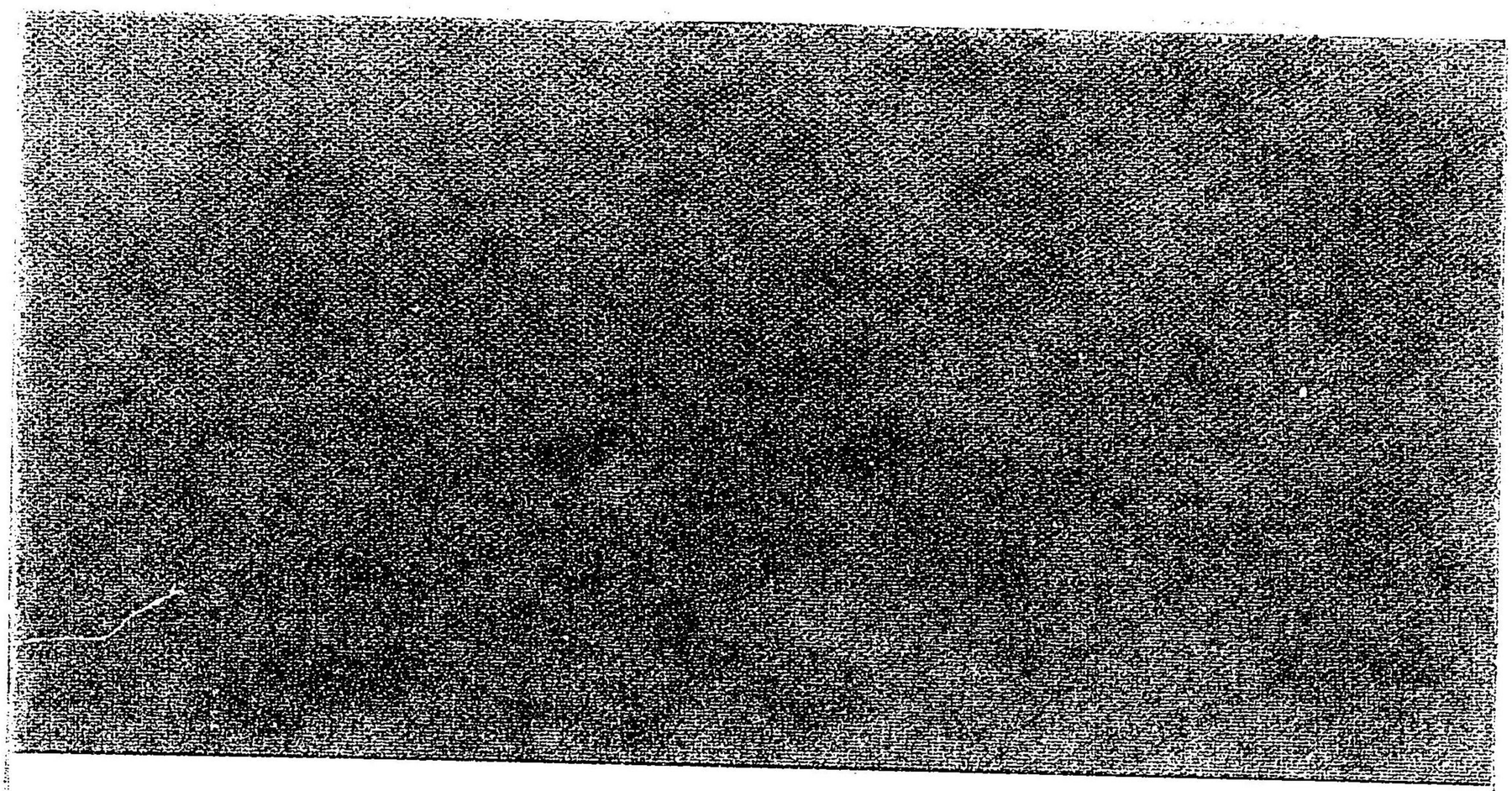
大日本
戰捷　討清劍舞法

国立国会図書館

074704－000－4

特23－337

討清劍舞法

藤原　懋／編

M27
CEJ－0292